



成田ロータリークラブ 週報



国際ロータリー2015～16年度会長 K.R. ラビンドラン

第 2692 回例会 平成 28 年 2 月 19 日(金)

- ◇ 点 鐘 佐瀬 和年 会長
- ◇ ロータリーソング 奉仕の理想
- ◇ 四つのテスト 角田 幸弘 会員
- ◇ お客様

テラ・ルネッサンス 創設者・理事 鬼丸 昌也 様
成田コスモポリタンロータリークラブ 横山 英樹 様、池田 和彦 様
八日市場ロータリークラブ 鶴沢 宣広 様



◇ ニコニコボックス



佐瀬 和年 会長：成田高校のオーケストラと一緒に、仏教聖歌隊で歌を歌わせていただきました。オーケストラの演奏で歌うのは初めてでしたので、ニコニコさせていただきます。



平野 省二 会員：少し時間が経ちましたが、2月7日、ちょうど地区大会の日に、成田市出初式がありました。私はOBということではありましたが、佐瀬会長の代理で出席してきました。



角田 幸弘 会員：本日、二点ニコニコさせていただきます。まず、成田ロータリークラブに入会して、初めて4つのテストを先導させていただきました。もう一つは、「抜粋のしおり」を釣り同好会の時に初めてもらいました。発行元の「クマヒラ」について調べてみました。金庫メーカーということで、私には縁がありませんが、創業者の熊平源蔵さんが社会への奉仕、感謝の気持ちを表すために昭和6年に創刊されたということです。全国の官公庁、自治体、教育機関にお届けしていますということです。成田ロータリークラブでご縁のある方がいたということだと嬉しいです。感謝してニコニコいたします。ちなみに、Amazonでは、2000円で購入可能です。



堀口 路加 会員：2月4日から10日にかけての米山学友ホームカミングが無事に終了し、ブヤンは12日に無事に帰国しました。地区委員会としての最も大変な行事を終えることができましたので御礼と共にニコニコいたします。



大澤 浩一 会員：佐瀬会員が仏教聖歌隊のメンバーとは知りませんでした。今度はゆっくり見てみたいと思います。入試などが続いて欠席続きでしたが、結婚祝いをいただいております。ありがとうございました。それと、ペットボトルのキャップの御礼を申し上げたいのですが、長原会員とあともう一人届けていただきました。

ありがとうございます。

◇ 会長挨拶

佐瀬 和年 会長

テラ・ルネッサンスの鬼丸さん、成田コスモポリタンロータリークラブの横山さん、池田さん、それから八日市場ロータリークラブの鶴沢さん、ようこそいらっしゃいました。今日の感謝も含めてお伝えしたいのは、シルネン・ブヤンジャルガル氏が2月12日（金）に帰国されました。



前日の11日に堀口会員、平山会員、私と共にブヤンをジョイフル本田へお連れして、学校で使う教材の一部を購入致しました。

18v マルチツール ¥24,800

EVD ジグソーヘッド ¥4,280

データ転送レーザー距離計 @14,800×2 ¥29,600

ベッセル、ワイヤーストリッパーA @3,066×2 ¥6,132

圧着工具 HAK112MA @11,300×2 ¥22,600

打診ハンマーA-3 @2,550×2 ¥5,100

ベッセル、ワイヤーストリッパーC @¥3,066

ピックアップスール S QJ PU-11 @358×6 ¥2,148

合計金額 ¥97,726

上記の製品をプレゼントすることができました。翌日は深堀幹事、平山会員、堀口会員にお見送り戴きました。その折千葉ロータリークラブの中村会員のご手配で測量機器も提供されました。

まず、一つの仕事に着手できた事をお伝え致します。ありがとうございました。

◇ 表彰

- ・ロータリー財団 ポールハリスフェロー メジャードナー
平山 秀樹 会員
- ・米山記念奨学 第3回マルチプル
神崎 誠 会員



◇ 委員会報告

・ロータリー財団・米山記念奨学委員会 遠藤 英一 委員長
米山記念奨学へ成田温会員から 10 万円の寄付を頂きました。



・ロータリー財団 浅野 正博 サブリーダー
橘会員から遠藤会員のポイントを利用して 10 万円の寄付を頂きました。



・奉仕プロジェクト委員会 設楽 正行 社会奉仕サブリーダー
みなさんのお手元に 55 周年記念の東日本復興支援ということで、陸前高田の松林の復活のためのコンサートの役割表が配られています。成田高校インターアクトの若い世代とともに、息の長い支援をするために企画しています。そこで、委員だけでなく全員でやろうということになりました。資料にあるように、全員が役割を持っています。24 日に主だった中間部分の方に声をかけて詳しく説明する機会を設けています。6 月に設定はしていますが、意外に時間はありません。24 日に決まったら、全速力でかけまわるということになります。ご協力をお願いいたします。



・55 周年記念委員会 矢島 紀昭 委員長

2 月 12 日、ANA クラウンプラザホテルで 55 周年特別委員会を行いました。概略を申し上げます。日時は 5 月 10 日金曜日、夜間家族例会といたします。当初は会員だけということで計画しておりましたが、折角日本大学ラテンバンドの方に来て頂き演奏してもらうので、家族を呼んで盛大にやろうということになりました。



55 周年の記念品は全会員に平等に記念になるものをと考えております。詳細は追ってご連絡いたします。大勢のご参加をお願いいたします。

・雑誌・広報委員会 高橋 正 リーダー

今月の「ロータリーの友」の記事紹介です。横組み 6 ページ、「ロータリーとは」ロータリーの誕生とその成長について書かれています。私もロータリーに入会し日が浅いので勉強になります。是非ご一読ください。



・医療情報 橘 昌孝 会員

3 週間前、印旛郡全体のインフルエンザ発生数は 793 人でした。2 週間前 1,282、先週 1,371 それほど増えておりません。そろそろピークも過ぎるかと思われませんが、A 型に感染しその後 B 型に感染するというパターンも出てきております。油断せずにマスクの着用、うがい、手洗いをお願いします。



◇ 幹事報告 深堀 伸之 幹事

《回覧》

- ・週報 多古、成田空港南ロータリークラブ
- ・例会変更 白井ロータリークラブ
- ・ちば里山新聞
- ・ハイライト米山2月号
- ・2016年次大会 I Nソウル最終案内。
- ・第9分区親睦ゴルフ4月21日(木)
レイクウッド総成カントリークラブ
- ・行事予定表



《連絡》

・地区から台湾義援金のお願いが来ております。献金箱を回しますので、会員1名あたり500円程を目安にお願い致します。2月29日に地区へ振込予定です。

◇ 卓話

~~~~「テラ・ルネッサンスの活動」~~~~

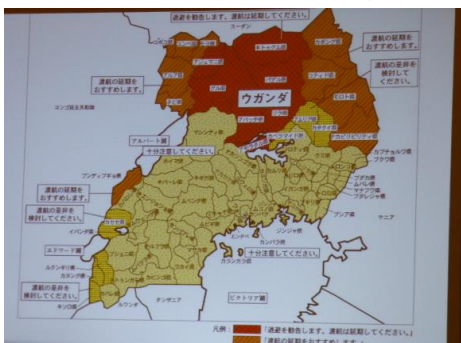
テラ・ルネッサンス 創設者・理事 鬼丸 昌也

今日は、3年前にこちらで卓話をさせていただきまして、それからどのような支援の変化があったのか、我々が取り組んでおります子ども兵の問題で言いますと、実はこの2、3年で大きな変化がありました。それを含めてお話をさせていただきたく思っております。



最初に自己紹介をさせていただきます。鬼丸という苗字は、九州福岡に多くあります。大学は京都に進学し、大学4年生21歳の時にテラ・ルネッサンスという団体を一人で作りました。元々はカンボジアの地雷除去の支援活動から始まり、現在はアフリカの三つの国で子ども時代に兵士だった人たちが社会に戻って生活できるように職業訓練や、識字教育などの支援を行っています。現在、日本のNPOやNGOで、子ども兵の問題に、現場で取り組んでいるのは私たちだけです。後で申し上げます理由でなかなか取り組まれない問題でもありますので、また改めて皆様にお聞きいただきたいと思います。

僕たちが活動している地域の一つはアフリカのウガンダです。今は大変便利になりまして、



成田空港からアフリカ直行便が出ております。エチオピア航空です。僕たちが何故ウガンダで活動しているのかと申しますと、日本の外務省のホームページを見ていただくと、こういう地図があります。この国地域はこれぐらい危険ですよということで4段階に色分けされています。この地図の中で、日本の外務省が危険だよと言っているのは赤い地域 退避勧告地域です。僕らは、首都が

あるウガンダの南側ではなくウガンダの北部にあるグルという街を目指しました。これはウガンダの北部にある一番大きな街です。2006年までウガンダ北部は退避勧告地域が発令されていました。ここへ行くにはいろいろ大変です。もちろん安全の確認はして行きます。一番問題だったのは海外旅行傷害保険が一番大変でした。10日間滞在しましたが、AIUと東京海上さんだけが受けてくれました。海外旅行傷害保険戦争特約というのがあります。一人10日間掛け捨てで16万円です。何故ここに行ったのかというと、ウガンダ北部で戦争している2つのうちの1つのグループ 神の抵抗軍というのですが、沢山の子ども達を誘拐して兵士にしていました。その数を申し上げますと、どんなに少なくとも23年間の戦闘で2万人、国連の統計だと6万6千人の18歳未満の子ども達を誘拐して兵士にしていました。正しく申し上げますと、結局誰も正しい数は知らないんです。統計側にそれだけぶれがあるということは、誰も知らないということなんです。とにかく万単位の子供達が誘拐され兵士にされたということなんです。

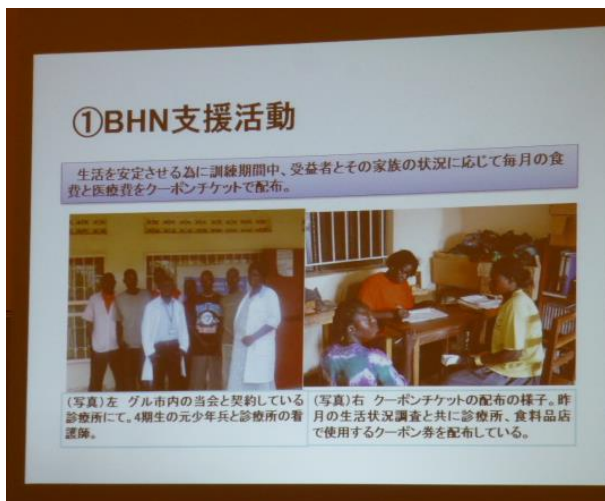
例えば、私たちも2004年の初めてのウガンダ北部の調査で8人の元子ども兵に出会いました。彼の場合は神の抵抗軍に誘拐され訓練を受けます。訓練の後、自分の生まれ育った村を襲いに行かされます。理由は簡単です。脱走を防ぐためです。自分が生まれた町や村、家で残虐な行為をすれば、もう二度と戻ろうとは思いません。自分のやったことをお父さんや、お母さん、おじいさんも知っているからです。彼の場合も、村を襲いに行かされた時、12歳でした。家にはお母さんがいましたが、その女を殺せと言われ嫌だと言うと、銃の反対側でボコボコに殴られました。その女をどんなに大切にしているかわかると、今度は、「その女の腕を切れ。そうしなければどちらも殺す」と言われました。少年は自分の命とお母さんの命、両方助けるため仕方なく腕を切り落としました。

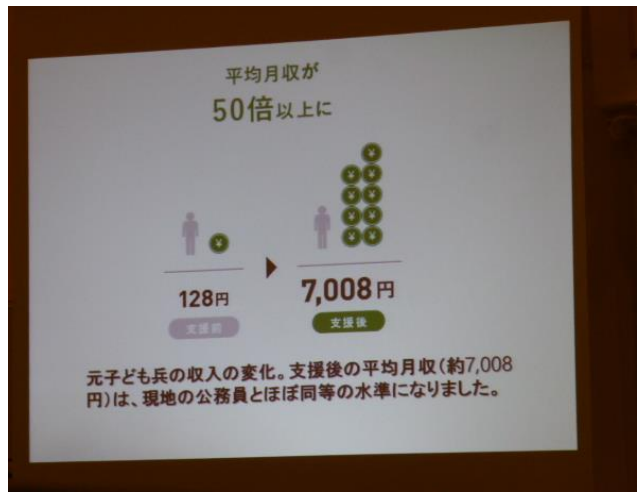
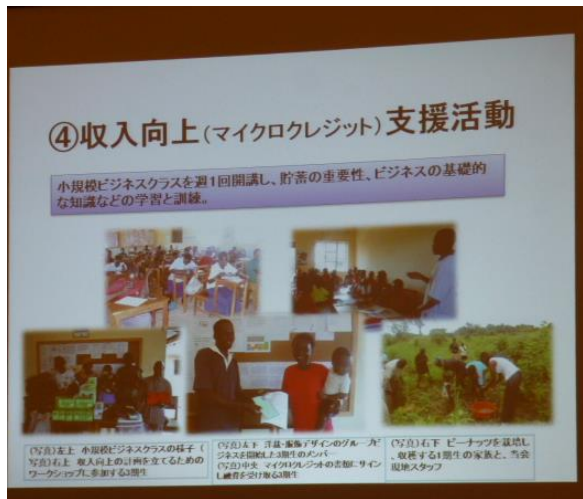
僕らと出会った2週間前に彼は奇跡的に母親に再会していました。神の抵抗軍と政府軍が戦闘中に子ども兵が銃弾で足を傷つけて障害を持つと、神の抵抗軍は置き去りにします。それを政府軍が尋問のために救出するのですが、病院に担ぎ込まれたままお母さんに出会うことができたそうです。その時のことを彼は僕らにこう語ります。「僕はお母さんが僕のことをどう思っているかすごく心配だった。」お母さんは大変だったね、苦しかったね、辛かったね。と彼の体験したことを全部最後まで聞いてくれたそうです。それがすごく嬉しかったそうです。しかし、その後彼はいいました。僕にはわかる。お母さんが以前と同じように愛してくれることはもう無いんだと。受け入れてくれることはないんだと。当時16歳だった彼が語ってくれました。

このような子ども兵は、この2、3年で若干増えています。ウガンダにおいては減っていますが世界全体で見ると30万人ぐらいいます。何故まだそんなにいるのか？それはISと原油低下が関係しています。ISは沢山の兵士を雇っています。それは原油が高かったからです。でも現在では原油価格がどんどん下がってきて、高いお金を払って大人の兵士を雇えません。それではどうするか？シリアなどで沢山の子ども達を誘拐して兵士を育てるんです。だってコストがゼロだから。なぜなら誘拐だからです。子どもはこのように使いやすいため、だから増えていきます。

僕たちが2004年に初めてウガンダに行き、こういう元子ども兵たちの現状を見て何ができるんだろうと考えた時に、まずは現実にいるこの子ども兵たちがもう一度社会に戻って生

活できるようなサポートが必要だと感じました。何故なら子ども時代に学校に行けませんでした。子ども時代に親と過ごすことができませんでした。字の読み書き、計算、何より人とのコミュニケーションがわからなかったのです。ということで日本の NGO 国際機関でも初めてです。先ほど見ていただいたような社会復帰の支援施設を建てて 11 年目になります。お陰さまで、先ほどの映像で見ていただいたような元子ども兵士たちをこの 10 年間で 169 名受け入れてきました。一人当たり 3 年を支援にかけます。最初の 1 年半は食費や医療費を提供し、その変わり安心して毎日先ほどの施設に通ってもらい職業訓練を受けてもらいます。ちなみに申し上げますと食費や医療は、現金では渡しません。クーポン券で渡します。決められたお店でしか使えない。何故かというと、麻薬やアルコールに使ったり、借金の清算に使ってしまうかもしれないからです。地域でもすぐにお金になるような洋裁、木工大工の授業を受けてもらいます。心のケアもしながら最終的には 10%の利子でお金を貸し付け、皆に起業してもらいます。お金を稼いでもうんです。支援を受ける前の月収は 128 円でした。今 16 名が僕らの手を離れて自らの手で稼いでいます。その月収は平均で約 7000 円、少なくとも 5000 円。これは公務員と同じ月収です。ホテルのウェイトレスがウガンダの北部だと月収 3000 円ですから非常に高額な所得を得られるようになりました。実は僕たちはこうやって働いてもらうこと、お金を稼いでもらうこと、所得を得てもらうことに物凄くこだわっています。それには理由があります。例えば、もと少女兵がいます。村に帰ってくると地域の人に言われるんです。神の抵抗軍で望まない妊娠、望まない結婚とかさせられたのに、「お前帰ってこなくてよかった。腹の子ども父親のいる神の抵抗軍は、親父を殺した、子どもを誘拐した。」差別や偏見の対象になるんです。ここに子ども兵の問題が何故世界で難しいと言われ続けているのかという理由があります。彼らは被害者でもあり加害者の立場も持っているんです。だから支援の手が集まりにくい。成果が出にくいから。私たちは考えました。人の変化や成長って半期や四半期で出るものだろうか。ましてやもと子ども兵士です。だから寄り添い続けなければならない。それが本当の支援ではないか。皆さんから大切にお預かりしているお金を使わせていただいて、3 年かけて必ずその人たちが社会復帰できるように長期のサポートをしよう決めて 10 年続けてきました。





実はそんな元子ども兵士達が、私たちに大事なことを教えてくれたある一日があります。それが2011年3月11日でした。岩手県大槌町で被災されて職を失った高齢女性の生活を立て直す支援活動を5年続けています。なかなかおばあちゃんたちのやる仕事がありませんでした。そんな中、縫い物が上手なおばあちゃんたちを集めて、コースターとかTシャツに加工してもらう仕事を始めました。お陰様で、5年間で180名、大槌町のおばあちゃんたちに2,600万円を賃金としてお支払いすることができました。中には津波で無くした妹さんのやっていた焼き鳥屋を再建したり、孫の学費をこの収入でというおばあちゃんもいました。そんなプロジェクトをやる一つのきっかけだったのがウガンダの元子ども兵士だったんです。あの3月11日、ウガンダの職員が一本の電話をしてきました。ウガンダでも津波の映像を見ることができ、あんなに優しい日本人が沢山苦しんでいる、悲しんでいる。子ども兵は知っているんです。皆さんがどんな思いをして支えて下さっているのかを。この前愛知県の幼稚園児たちが、僕らの話を聞いて何ができるか考えて、一ヶ月おやつを我慢し、1万円を寄付してくれました。それが積み重なって僕らは年間1億1千万円と言う皆さんからの大切なお金をお預かりしています。みんなで、自分たちの稼ぎの中から少しずつ出し合って半日後に集まったお金は日本円で5万円。ウガンダの公務員の平均月給は7千円。その国の5万円です。最後にお前たちは何をするのか？と言われ、東北支援のみなさんに関わろうという決意ができました。こういう子ども兵士たちの支援は大変時間がかかります。時間がかかるだけでなく、お金も人手もかかります。



人はいつか変わる。人は必ず変わることができる。10年向き合っただけで思いました。変わるきっかけとチャンスを気づいた私たちが少しずつ提供して行くことによって、必ず人や組織や社会は変わって行くんです。そんなことを元子ども兵たちが、私たちに彼らや彼女たちの姿を使って教えてくれました。今千葉では横山さん始めテラ・ルネッサンス千葉と言って、私たちが支えてくださっている方達が少しずつ、少しずつですが出て来てくださっています。本日、チラシも配らせていただいておりますので是非ご覧になっていただいて、一緒になって元子ども兵士たちや世界の人々を支えていただくと嬉しいなと思います。今日はご清聴ありがとうございました。



◇ 点 鐘 佐瀬 和年 会長

出席表

会員数	出席義務者数	出席数	欠席数	出席率	前回補正
63	62	37	25	59.68%	46.77%

MAKE UP CARD

氏 名	月 日	ク ラ ブ 名
齊藤 三智夫 会員	2月7日	地区大会2日目
佐瀬 和年、深堀 伸之、吉田 稔、堀口 路加 川島 利昭、音花 昭二、浅野 正博、菊地 貴 各会員	2月10日	ホームミーティング
長原 正夫 会員	2月15日	牛久ロータリークラブ
橋 昌孝、深堀 伸之、成田 温、浅野 正博、吉田 稔 各会員	2月19日	プログラム委員会

事務局 〒286-0127 成田市小菅 700
成田ビューホテル内
電話/FAX 0476-33-8786

例会場 成田ビューホテル
電話 0476-32-1111
例会日 金曜日 12:30
例会出欠連絡先(直通)
電話 0476-32-1192 FAX 0476-32-1078